

(大正五年四月六日第三種郵便物認可) 昭和十年十月廿五日印刷納本(毎月一回一日發行)

# 哲 學 研 究

第 二 十 二 卷    第 十 一 冊

第 二 百 三 十 六 號

昭 和 十 年 十 一 月 一 日 發 行

種 の 論 理 と 世 界 圖 式 (承 前)

—— 絶 對 媒 介 の 哲 學 へ の 途 ——

文 學 博 士    用 邊 元

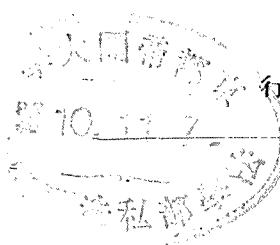
信 仰 の 論 理 (承 前) ..... 文 學 士    片 山 正 直

數 學 的 方 法 の 構 成 に 及 ぼ せ る プ ラ ト ー ン の 影 響 ..... 長 澤 信 壽 譯

ソ ル ム ゼ ン

京 都 帝 國 大 學 文 學 部 內

京 都 哲 學 會



## 京都哲學會規則

- 第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス
- 第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ
- 一、毎月一回研究會ヲ開ク
  - 一、毎年公開講演會ヲ開ク
  - 一、毎月一回雜誌『哲學研究』ヲ發行ス
- 第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文學部内ニ置ク
- 第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク
- 一、委員(若干名)京都帝國大學文學部哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
  - 一、書記(一名)委員會ニ於テ囑託ス
- 第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得
- 學校、圖書館、教育會、其他ノ團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會スルコトヲ得
- 第七條 會員ハ會費トシテ年四圓四拾錢、前後二期ニ分チテ前納スベキモノトス
- 第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得、且ツ雜誌『哲學研究』ノ配付ヲ受ク
- 第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

## 京都哲學會役員

### 委員

文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士				
天野貞祐	岩井勝二郎	植田壽藏	臼井二尙	小島祐馬	木村素衛	九鬼周造	田邊元	中井正一	西谷啓治	野上俊夫	羽溪了諦	波多野精一	服部英次郎	本田義英	山内得立

# 京都哲學會公開講演會

來る十一月二十四日(日曜)午後一時半より京都帝國大學法學部第四教室に於て左記の如く公開講演會を開催致します。

## 祖國の問題

京都帝國大學助教授文學士

白井一二尙君

## 知覺形而上學の問題

京都帝國大學講師文學士

土井虎賀壽君

京都帝國大學文學部内

京都哲學會

# 前 號 目 次

種の論理と世界圖式

——絕對媒介の哲學への途——

文學博士 田邊 元

印度に於ける蓮華驗研究の方法

——特に法華經を顧慮して——

文學博士 本田義英

會 告

- 一、本會へ入會希望者へ京都市西洞院七條南内外出版印刷株式會社内京都哲學會宛テニ規定ノ會費（前表紙裏ニアリ）御納付ノ上御申込被下度候
  - 二、會員ニシテ轉居入退會等（編輯事務以外ノ一切）ノ事務ハ内外出版印刷株式會社内京都哲學會へ御通知被下度候
  - 三、會費ハ振替口座大阪〇六六三番 内外出版印刷株式會社内京都哲學會宛テニ御拂込被下度候
  - 四、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・寄贈雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候
- 京都帝國大學  
文學部内 京都哲學會

註 文 規 定

- ◎ 會員にあらざる購讀者の御註文及び廣告に關する件は内外出版印刷株式會社へ御申込下され度候
- ◎ 本誌の御註文はすべて代金郵税共前金にて御送り下され度候
- ◎ 振替貯金にて御送金の際は（振替大阪三九三一番東京三九三一番）内外出版印刷株式會社宛に願上候
- ◎ 前金切れの場合に帶封に「前金切」の印章捺捺致すべきに付直に御拂込下され度候
- ◎ 特に請求書及領收書等を要する場合は郵券參錢御送付下され度候

定 價

冊	冊	冊	冊
一	六	十二	十二
冊	冊	冊	冊
金	金	金	金
四	四	四	四
拾	拾	拾	拾
錢	錢	錢	錢
不	不	不	不
申	申	申	申
受	受	受	受

廣 告 料

一頁 金參拾圓 半頁ハ取扱不申

昭和十年十月廿五日印刷納本  
昭和十年十一月一日發行  
第二百三十六號 第二十一冊

京都帝國大學文學部内

京 都 哲 學 會

編 輯 者 右 代 表 者 服 部 英 次 郎

發 行 者 須 磨 勘 兵 衛

印 刷 者 須 磨 勘 兵 衛

印 刷 所 須 磨 勘 兵 衛

西 京 都 市 下 洞 院 七 條 南 區 西 洞 院 七 條 南 區

發 行 所

西 京 都 市 下 洞 院 七 條 南 區

内 外 出 版 印 刷 株 式 會 社

振 替 口 座 大 阪 三 九 三 一 番 東 京 三 九 三 一 番

本 社 京 都 市 下 京 區 西 洞 院 通 七 條 南 入 販 賣 所 東 京 市 日 本 橋 區 本 銀 町 三 十 四

内 外 出 版 印 刷 株 式 會 社

東 京 東 海 堂

寶 文 館 北 隆 館 上 田 屋 盛 文 館 大 瀨 書 店 參 文 社

寶 文 館 寶 文 館 共 盛 社 大 盛 社

大 阪 神 戶 京 都

大正五年四月六日  
第三種郵便物認可  
昭和十年十一月廿五日印刷  
納本(每月一回)  
發行(一日發行)

# 社會科學の建設者 人と學說叢書

思想に國境なし、國民運動が盛になればなる程、健全な、そして眞に國民の精華を發輝するには、洋の東西を問はず温古知新によつて心の糧を攝取する必要がある、だが思想・學說は之を斷片的に讀んでも其の眞意を捉ふることは困難である。其の時代の環境と、その人の個性とに即して思想の全体系を掴み、それとの關聯に於て個々の學說を理解しなければならぬ。「人と學說叢書」は社會科學の發展に貢献し、社會思想の創始者とも見るべき人々の學說を紹介したもので各思想家の傳記であると同時にその時代の文化史でもある。  
(四六判・總クロース裝・價各1.20 円.08)

慶應義塾大學教授 高橋誠一郎著

## ★アリストテレス

「知者の師」は又近世社會科學の爲に最も偉大な礎を据えた斯學の開祖。著者はわが經濟學史界の巨星。其の權威無比。清鑑を賜へ!

東京商大教授經濟學博士 上田辰之助著

## ★トマス・アクィナス

中世協同體の理想を經こし、希臘思想を緯として織りだされた絢爛の社會學大系。教授はトマス研究の第一人者。全篇學殖の結晶!

東京帝大教授經濟學博士 本位田祥男著

## ★マルチン・ルッター

宗教改革はルッターを離れて考へられない。ルッターの文化史的把握は正に社會科學研究の鍵。あくまで平明に描れた名匠會心の作。

慶應大學教授經濟學博士 増井幸雄著

## ★ケネー

重農主義の元祖ケネーは資本循環の理論を樹立した經濟學の草分け、其の經濟表は人類三大發明の一。著者は佛蘭西經濟學の泰斗。

慶應義塾大學教授 野村兼太郎著

## ★荻生徂徠

徂徠は徳川時代の代表的經濟學者、享保以來學者が國家有用の實學に向つたのは彼の功績。著者は經濟史及日本經濟學說史の最高權威。

法政大學教授農學博士 小野武夫著

## ★佐藤信淵

幕末農政學の大成者佐藤信淵はたゞの農學者ではなかつた。農政學は經世濟民の一手段、彼は卓越せる社會改造の理論家であつた。

東京商科大學助教授 杉村廣藏著

## ★カント

經濟哲學の權威による獨得のカント論。「カントの生涯および世界觀」「社會思想家としてのカント」を叙するその筆致の絶妙!

東北帝國大學教授 新明正道著

## ★オーギュスト・コント

學問的な意識を以てコントの全思想を全體にわたつて評釋し、よく人間としてのコントを理解せしめるに效果あらしめた新傳記文學。

大阪商科大學助教授 五島 茂著

## ★ロバート・オウエン

産業革命の風雲児オウエン程劇的な人物は少い。彼は燃ゆるが如き理想家、徹底した環境論者、協同主義の使徒、労働組合の先驅者。

關西學院教授 中島 重著

## ★スペンサー

綜合哲學の完成者、適者生存の見地よりして彼は社會を生物學的に見、道徳を進化的功利主義を以て解決した。

大阪商科大學教授經濟學博士 堀經夫著

## ★デヴィッド・リカード

アダム・スミスと共にイギリス正統學派の代表者としての彼については贅言を要しないであらう。著者は我國に於けるリカード研究の第一人者として自他共に許さる。

株式會社

# 三省堂大阪支店

大阪市西區阿波屋下通二丁目  
電話 新町五三九番  
振替 大阪八一三〇〇番

哲學研究 第二百三十六號 定價金四拾錢 郵税金壹錢